



◀時計の前に並び、多久ロータリークラブの古川会長ほか役員のみなさんと横尾市長

新しい屋外時計を市民のみなさん役立てて！

多久ロータリークラブ創立25周年記念で善意の寄贈

創立25周年を迎えた多久ロータリークラブから10月16日、市に太陽電池式電波屋外時計が寄贈されました。同日、設置された中央公民館敷地で贈呈式が行われ、関係者14人が出席。古川眞澄会長から横尾市長に目録が手渡されました。

古川会長は「屋外時計が壊れていたのを聞きつけ、中央公民館を利用される市民のみなさんに役立ち、喜んでいただけるよう寄贈させていただきました。費用は、毎月行っている定例会の折にポケットマネーを箱に入れ、25年間積み立てたものです。末永く利用していただきたい」と、会員43人の思いを伝えました。

設置費用を含み約45万円相当の時計は、両面タイプで、文字が大きく、公民館の出入りに見やすいよう設置。横尾市長は「この時計が多くの方の人生を刻む、時を確認する、そして思い出をつくるなどシンボルになることを願うとともに、25年にわたり様々な事業に支援いただき心から感謝します」と、お礼を述べ、会員の活躍や今後の発展も願いました。

中多久駅舎がきれいにお色直し

ボランティアグループが塗装作業

多久掃除の会、中多久ボランティア連絡協議会、多久高校のボランティアグループ・レオクラブなどの有志25人と横尾市長、JR九州の職員らが9月27日、中多久駅舎のペンキ塗りを行いました。ローラーや刷毛で水性と油性ペンキを使い分け、天井の細部まで1時間半、丁寧に塗装。色あせていた壁は、清潔感あるクリーム色にお色直しされました。

唐津鉄道事業部の日山勲部長は「昭和39年4月開業以来の汚れや傷みなどは定期的に補修してきたものの、はげた塗装や色あせが年々目立っていました。市長の『一緒に汗を流しましょう』はありがたい提案で、みなさんの熱心な作業は、駅を大事にされている気持ちの表れです」と感謝。レオクラブ会長で3年の成富愛佳さんは「多久高生が主にお世話になっている駅なので恩返しのできる気持ちで頑張りました。誰もが駅を大切に使ってほしい」と話し、この経験が思い出に残ることも喜んでいました。

この日に合わせ市長手書きの看板（ケヤキの板）も掲げられました。



▲多久高生やボランティアのみなさんの手できれいになる中多久駅内外の壁

灯りの大切さやエコを感じながら“月見夜楽”

10/4

「電気を消し、十五夜を愛でながら環境問題を考えましょう」と西溪公園で“月見夜楽”が行われました。

多久市地域婦人連絡協議会が中心となり、足元には竹とペットボトルキャンドル400個を点し、来場者を出迎え。参加者は、月明かりの下、お団子を味わいながら、童謡・こども民謡・詩吟・西多久音頭などの披露を楽しみ、改めて電気のありがたさと地球にやさしくエコに電気を使う大切さを感じていました。



景観スッキリ！建設業協会が清掃ボランティア

9/29

小城建設業協会（諸富公昭会長）が多久北部工業団地内の市道沿いで清掃ボランティアを行いました。

会員となっている多久市と小城市の建設業者18社の社員ら約40人が集まり、低木の刈り取りや雑草の除草など約2時間をかけて丁寧に作業。おかげで沿道の景観は、みちがえるほどスッキリとなりました。

